

平成24年度 教育研究業績書

氏名 松川 恭子

最終学歴	大阪大学大学院人間科学研究科人間学専攻 博士号（人間科学）（2006年3月）	
取得学位	博士（人間科学）	
所属学会	日本文化人類学会、日本南アジア学会、「宗教と社会」学会、観光学術学会	
専門分野	文化人類学	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・インド西部ゴア州における多言語状況の文化人類学的研究 ・インド近代演劇発展史および大衆文化の系譜における大衆演劇ティアトル（インド・ゴア社会）の位置づけに関する研究 ・マルチメディア（特にデジタル・ストーリーテリングの手法）を利用した地域社会理解・発信の実践に関する方法論研究 	
授業科目	学部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク概論（後期） ・メディアとポピュラーカルチャー（後期） ・演習Ⅱ ・社会学演習Ⅳ
	大学院修士課程担当科目（博士前期課程含）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・
	大学院博士後期課程担当科目	
	通信教育部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・文化人類学 ・ ・ ・
【研究上の特記事項】	<p>① 平成24年度科学研究費補助金（若手研究（B））「インドのナショナルな大衆文化の系譜と演劇にみる地域的想像力の展開ーゴアの場合」研究代表者</p> <p>② 平成24年度科学研究費補助金（基盤研究（B））「湾岸諸国における外国人労働者：「多外国人国家」における共生・分断モデルの構築」研究分担者</p> <p>③ 国立民族学博物館共同研究「グローバリゼーションの中で変容する南アジア芸能の人類学的研究」研究代表者</p> <p>④ 大学共同利用機関法人人間文化研究機構 地域研究推進事業「現代インド地域研究」国立民族学博物館拠点 拠点共同研究員</p>	
【教育上の特記事項】	<p>① 奈良大学地域連携教育研究センター事業2「学生企画・地域交流ネットワークづくりとマルチメディアによる情報発信」主担当者として平城小学校・平城公民館と連携した学生の活動を支援した。</p> <p>② 3年生ゼミにおいて、デジタル・ストーリーテリング作品製作の指導を行った。</p>	

【社会的活動】	① 学生による平城小学校・平城公民館の活動支援のコーディネートを行った。
【学内活動】 (学内職歴を含む)	男子バスケットボール部顧問 (後期のみ)

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
①『朝倉世界地理講座 4 南アジア』	共著	2012年6月	朝倉書店	立川武蔵・杉本良男・海津正倫(編)、「インドのキリスト教」(369-376頁)を担当執筆。インドのキリスト教の宗派と年中行事について説明した。
②『カーストから現代インドを知るための30章』	共著	2012年9月	明石書店	金基淑(編)、「ゴア・クリスチャン」(292-301頁)の章を担当執筆した。ゴア・クリスチャンのあいだに存在するカーストについて、ヴァルナのジャーティ化、土地共有制度コムニダーデにおける支配層ガウンカール、カースト意識の南北差の3点を中心に説明した。
③『コンタクト・ゾーンの人文学<第4巻>Postcolonial/ポストコロニアル』	共著	2013年3月	晃洋書房	田中雅一・奥山直司(編)、第6章「インドにおけるポルトガル植民地支配と村落——ゴア州のコムニダーデ・システムの現在をめぐって」(128-150頁)を担当執筆した。ポルトガル支配を受けたゴアで発展した村落における土地共有制度コムニダーデ・システムがインドへの編入後に形骸化し、代わってインド民主主義制度の最末端に位置する行政機関パンチャーヤトの力が強まっていることを指摘した。
(学術論文)				
(学会発表)				
①“ <i>Xitkodd</i> (Rice and Fish Curry), <i>Comunidades</i> and <i>Ramponkars</i> : Goan Foodways in Transition”	単独	2013年1月	International Conference on Foodways and Heritage: A Perspective of Safeguarding the Intangible Cultural Heritage” at Hong Kong Heritage Museum (Hong Kong, China)	ゴアにおける食文化で、宗教やカーストの違いを越えて人々が共有しているのが、ゴア特有の食材を使用した魚カレー(<i>xitkodd</i>)である。魚カレーに使用される米を得るための農業、魚を得るための漁業は、大きな変化の波にさらされている。ゴアの土地共有制度コムニダーデと伝統的漁業を行うランポンカールを取り巻くゴア社会の変化について考察を行った。
(その他)				
①「環流プロセスにおいて変容する芸能と新たなフローの生成」	単著	2012年12月	『みんぱく通信』No.139: 28-29。	松川が研究代表者を務める国立民族学博物館共同研究「グローバリゼーションの中で変容する南アジア芸能の人類学的研究」2012年度の活動と成果の紹介。